

**創薬基盤推進研究事業 研究開発課題
事後評価報告書**

事業名（年度）	創薬基盤推進研究事業（令和3年度～令和7年度）
研究開発課題名	高輝度蛍光標識プローブを用いた二次元から三次元への薬物動態解析による創薬技術支援の基盤構築
代表機関名	国立がん研究センター
研究開発代表者名	濱田 哲暢

総合評価：良い

【評価コメント】

本研究は、独自に開発した 2D 及び 3D イメージング技術を基盤として、体内動態を可視化・定量化し、薬物特性評価上での重要な情報を得る創薬支援基盤を構築した点が評価できる。また、抗体の細胞内移行過程の可視化により、従来の知見を拡張する新たな知見を得ることができたことは学術的な価値が高い。また、課題間連携において、様々なシーズに対して有用なデータを提供し、研究開発の推進にも貢献した。

今後は、本研究成果をさらに発展させ、多様な創薬モダリティの開発への応用展開が可能となるよう、汎用的な薬物動態解析技術へと展開していくことを望む。また、実用化・社会実装に向けて、規制当局や関連分野の有識者との対話を深めながら、本技術の有効性や信頼性に関するコンセンサス形成を進めていくことを期待する。

以上